平成２８年度 長野市立西部中学校　学校便り　第２号

り　ん　ど　う

平成２８年　６月２４日 発行

全校一丸の応援で　完全燃焼　～ 北信陸上・市中体育大会編 ～

全校が熱い応援を送り、運動部活動の選手が躍動する６月。３日には【壮行会】が行われ、出場する選手を激励しました。各部ユニフォームを身に付け、吹奏楽部の演奏と美術部が描いたステージバックを背にしながら緊張した表情の選手が入場してくると、館内からは大きな拍手が鳴り響きます。応援では、在校生が「応援歌第一」を心のこもった大きな声で歌い上げ、選手の心に届けることができました。

校長先生からは、「西部中の代表として【①本気・集中・必死　②弱気にならない　③あきらめない】を胸に最後の１分１秒まで力を出し尽くしてきてください。」と言葉をいただきました。

選手の皆さんは、大会当日、西部中学校の代表として、他校の生徒と“競い合う、戦う、高め合う”すばらしい姿を、３年生を中心に数多く示してくれました。そして、今まで支えてくださった方々に感謝しながら、培ってきた力を精一杯発揮することができました。

以下は、北信陸上・市中体育大会の結果になりますが、大きな拍手を贈りたいと思います。

市中体育大会

【男子バスケットボール】
- ○　西部５５　－　３８若穂
- ●　西部２７　－　８５豊野
- ●　西部３７　－　８７東北

【女子バスケットボール】
- ○　西部５９　－　３０松代
- ●　西部２２　－　６８若穂
- ●　西部３８　－　４２松代

【剣道】
２年生女子（３回戦）
- ●　西部０　－　１裾花

【柔道】＊北信大会出場（個人）
３年生女子
○　１本勝ち
体重別階級１位

【男子ソフトテニス】＊北信大会出場（個人）
＜個人戦＞　１ペアがベスト１６
　　１ペアがベスト４８
＜団体戦＞
- ○　西部２　－　１附属
- ●　西部１　－　２東部
- ●　西部０　－　３篠ノ井西

【女子ソフトテニス】＊北信大会出場（個人）
＜個人戦＞　１ペアがベスト６４
＜団体戦＞
- ●　西部１　－　２川中島
- ●　西部１　－　２北部
- ●　西部１　－　２篠ノ井西
- ●　西部１　－　２松代

北信陸上大会　＊県大会出場
３年生男子１名　１００ｍで１位

＜裏面へ＞

３学年通信『ＷＥＳＴ３』第８号より　一部抜粋

【本棚の上のサッカーシューズ】

運動系・文化系を問わず、部活動をやっている人は、いつか必ず引退の時を迎えます。私は、この時期にきまって下の話を思い出します。発信元は、元・長野市教育長の奥村秀雄先生です。

奥村秀雄先生が柳町中学校長を退職した翌年の６月のある夜。サッカー部のキャプテン（Ｓ君）の母親から電話がありました。この年、世間の評判では、“サッカーの優勝は柳町中だ”ということもあったらしい。少し前の、奥村先生の退職間際、Ｓ君もキャプテンとして校長先生に「優勝」を誓ったといいます。ところが、柳町中は市中大会の１回戦であっさり負けてしまいました。以下は、その電話を聞いた時の奥村先生の回想です。

市中大会１回戦で負けた、その日。両親と妹の３人で、夜７時ごろテレビを見ておったんだそうです。夕飯はまだ食べないで。そこへＳ君が帰ってきた。「ただいま」「おかえり」。「夕飯どうするの」と聞いたら「いらない」と言って２階へ上がっちゃった。中学へ入ったからずっとサッカーをやってきたけど、今までそういうことはなかった。必ず家族と一緒に夕飯を食べていたんだから。

２階へ上がったきり降りてこないので、心配になって、私が２階へ行こうとしたら主人が「待て、せがれは泣いている。そっとしておいてやれ」と言った。

しばらくすると、Ｓが２階から降りてきました。何も言わずに、玄関の外で水道の水を出していました。…そのうちに水道の水が止まったと思ったら、玄関に入ってきた。玄関の縁に腰をおろして何かやっている。私はそっと見た。そうしたら、今日まではいていたサッカーシューズを、外の水道できれいに洗って、そして乾いたタオルでふいておりました。泣きながら、そのサッカーシューズをふいていた。

そして、９時近くになったら、また２階へ上がっていった。それでその晩は終わってしまった。

翌朝、「ご飯いらない、お金ちょうだい」と言う。それでお金を渡しました。おそらく、途中で何かを買って食べたのだと思います。それから主人は勤めに出て、妹も学校に行ってしまった。家で一人になった私は、そっと２階へ上がってみた。そしたら、彼の本棚の一番上に、そこにあった本を両側によけて、昨日まではいていたサッカーシューズ、…昨夜洗っていたのあのサッカーシューズが置いてあった。「よかった、これでいいんだ」と思って下へ降りてきました。

その日は後輩たちが、３年生の送別試合をやってくれた。非常に機嫌よく、早く帰ってきた。そして「お母さん、ちょっと２階へ来てくれない」と言うので２階へ行くと、あの飾ってあったサッカーシューズを見せて「そこに座って」と言いました。

それから「２年２ヶ月、お父さんもお母さんも妹も、僕のために朝早く朝食を一緒に食べてくれて、僕が帰るまで夕食を食べずに待っていてくれた。それなのに、優勝できなくて、ごめんね」。こう言って頭を下げました。

奥村先生の教えには「惜しむ心」があります。この話は、その中の「時を惜しむ」に関わって、中学生として「一生懸命になって取り組んできた２年余りの部活動人生」に、どうけじめをつけるかという姿をそっと教えてくれます。

「別れ」とは、終わりではない、「けじめをつける」ことなのです。そして「けじめをつける」のなら、それは同時に次への始まりでもあるのでしょう。Ｓ君は、部活動との別れに「今まで一緒に自分と戦ってきてくれたサッカーシューズを洗って本棚の上に飾って感謝する」という方法で、自分がサッカーとともに生きてきた２年余りという「時間」へのけじめをつけたのです。